



蔵満司夢¹，小嶋佑果¹，内海邑¹，加藤大智¹，小長谷達郎¹，高原朗¹，徳嶋賀彰¹，中村篤史¹，長澤亮¹，戸祭森彦¹，佐野遥香¹，山口芽衣²，上原拓也²

1 生命環境学群生物学類， 2 生命環境科学研究科（いずれも2012年度の所属）

1. はじめに ～つくバグって？～

地球環境への関心が高まりつつある一方で，子どもたちが身近な自然に触れる機会は減りつつある。そんな現状を打破すべく立ち上がった，生物学系の学問を学ぶ十数名の学生で構成される2009年に発足した団体がつくバグである。活動内容としては，地域の子どもたちを対象とした昆虫採集を中心とする自然観察教室や標本作成教室を年に数回行っている。またこの活動が，子どもたちが身近な自然に目を向けるきっかけとなることを目指している。

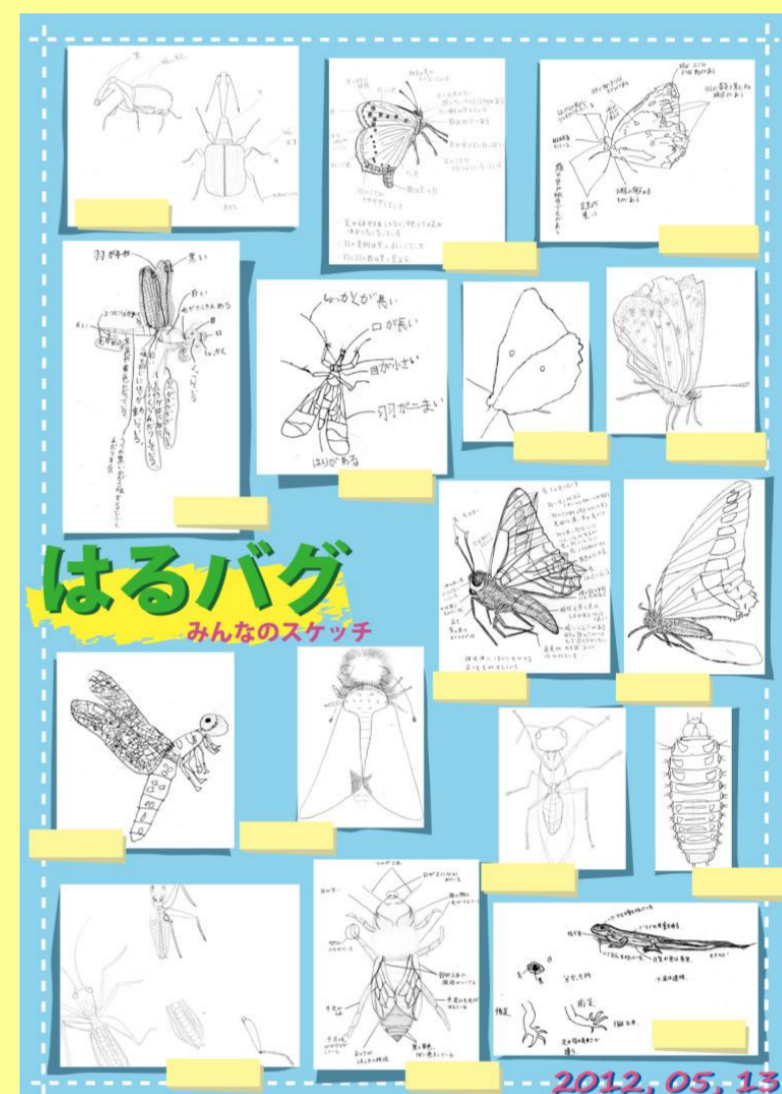


2. 2012年度活動報告

春バグ2012「生き物のスケッチをしてみよう」



日付：2012年5月13日
場所：筑波大学虹の広場
参加者：13名
内容：自然観察，昆虫採集，スケッチ教室



↑スケッチ教室の様子
参加者の画集→

夏バグ2012「水辺の昆虫を見てみよう！」



日付：2012年8月5日
場所：筑波大学虹の広場
参加者：33名
内容：自然観察，昆虫採集，標本作成教室



↑採集の様子
集合写真→

3. 成果と今後の展望

各観察会終了後に行ったアンケート調査によると，参加児童・生徒，同伴の保護者ともに「参加してよかった」「普段気づかないような虫を見つけられてよかった」等のポジティブな回答，評価が大部分であったことから，地域の子ども達に昆虫採集を通して自然に目を向けるきっかけを提供するという目的は達成されたと考えている。また，2012年度は参加者の年齢や能力に合わせた，異なる難易度の体験内容を用意したことで，これまで生き物にあまり興味がなかったような子ども達を少しずつ取り込むことができた。このことは，2011年度までの活動で課題として指摘されていたものであり，それを改善できたことは評価できるものだと考えている。2012年度は活動報告会等にも積極的に参加し，我々の活動を学内外に周知することができた。大学生が行う環境教育の一つのモデルケースとして，今後も積極的な情報発信を続けたい。